

平成27年度第3回大府市総合教育会議議事録

招集年月日 平成28年2月24日
招集場所 大府市役所 委員会室1
開 会 9時30分
閉 会 11時00分

委 員

市 長	久野 孝保
教育委員長	河合 昌和
教育委員	永田 司
教育委員	西村 和子
教育委員	竹中 万里
教育委員	浅井 宣亮
教育長	細谷 正明

委員以外の出席者

副市長	岡村 秀人
教育部長	内藤 郁夫
学校教育課長	大島 将嗣
学校教育課係長	長坂 規代
学校教育課係長	中村 正樹
学校教育課主査	稲垣 七重
企画政策部長	池田 裕一
企画政策課長	久野 信親
企画政策課主幹	橋爪 秀信
企画政策課係長	川出 陽一

傍聴人なし

議題

- (1) 大府市教育大綱の策定及び大府市教育振興基本計画の改定について
- (2) 大府市新生涯学習プラン（仮称）の策定について
- (3) 平成28年度教育委員会予算について

発言者	要 旨
河合委員長	<p>皆さま、本日はお忙しい中、第3回総合教育会議にお集まりいただき、ありがとうございます。次第に沿って進めてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、始めに市長さんよりご挨拶をお願いいたします。</p>
市 長	<p>皆さん、こんにちは。本日はお忙しいところ、第3回の総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。一応主催者ですので、そのようなごあいさつを申し上げたいと思います。</p> <p>私も残すところ1か月余りとなりましたので、今は悲しくて、はかなくて、切なくて、今言った言葉で何が言いたいかという、立つ鳥は跡を濁さないよう、残された任期を全うしたいと思っています。当初より在任は3期12年で、一応はある程度の成果は挙げたというふうに思っております。やるべきことは一生懸命やらせていただきまして、ただ、教育に関してはもう少しだけ何とかしたい。これは、実は教育は日々発展していると思うんです。教育は進化している。もちろん行政も進化していますが、それ以上に教育というのは、今日の社会の変化を受けて変わっているんです。社会の変化は激しいです。従って、教育もそれに合った変化をしなければならない。その意味では、もちろん変わらないものは変わらない、変えない。そのようなことを感じながら、これから皆様方に総括いたしますので。そして、また先生方が本市の小中学校において、本当に熱心に、情熱を持って指導に当たっていただいております。感謝申し上げたいと思います。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。続きまして、私からもご挨拶を申し上げます。</p> <p>市長さんが今申し上げられたように、教育は変わっていかねばならないということから、本日は教育大綱の改定も議題でございます。本市独自の教育大綱もあってもいいかなというふうに思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>長草の天神祭が終わりまして、私どもは天神さんが終わると春になる、とおふくろから教えられてきているんですが、ちょっとまだ風が冷たいようです。先日以来、風邪がひどくなって、今インフルエンザの患者さんがたくさんいらっしゃるようです。インフルエンザではないんですが、私も別の部屋に隔離されています。花粉症もありまして、現職の頃は職員が花粉症だとかいっていると、腹の中ではそんなものに罹るなんて思っていました。定年後に自分も花粉症になってしまいました。</p> <p>今日は、先ほど市長さんからお話がありましたように、教育大綱それから教育振興基本計画の改定についてといろいろとありますが、時間が限られておりますので、皆さんのご意見を集約しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p>
河合委員長	<p>それでは、議題が3本用意されておりますので、順番に進めたいと思います。</p> <p>最初は、大府市教育大綱の策定及び大府市教育振興基本計画の改定についてということでございます。資料もそれぞれ用意されておりますので、事務局の方からご提案をお願いします。</p>
学校教育係長	<p>(大府市教育大綱の策定及び大府市教育振興基本計画の改定について説明)</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>1月25日の義務教育推進協議会でもこの資料が出されております。そこで出たご意見についても紹介をさせていただきました。この件についていかがでしょうか。</p> <p>永田委員、お願いします。</p>

発言者	要 旨
永田委員	<p>ひと通り説明を聞いて、平成28年度までのものを一応継承ということで、ほぼ同じだと思うのですが、施策の概要のところが少し変わるのかなと思いますので、文言の違いについてちょっと2、3点指摘させていただきますと、前の計画の施策の概要のところでは「情報教育の推進」となっていたのが、今回は「情報教育推進」となってます。その下のところでは、「健康づくり」と「体力づくり」になってますが、前の計画では、「健康づくり」と「体力づくり」となっています。本市ではどちらが正しいのかということですが。あと、「魅力ある教育環境の整備」のところでは、「保護者や地域住民に信頼される学校づくりを果たす関係づくり」も「関係づくり」の記載が一段違っていると思うんですが。あと、最後の「文化・芸術」のところでは、行間の1行が離れてしまっているというところが気になったところです。</p>
河合委員長	<p>はい、今、永田委員さんからの多少文言の違っているところのご指摘がありました。まず、修正しなければいけませんので、今のご意見を参考に修正お願いしたいと思います。</p> <p>「施策一覧(案)」の知育の⑧で、新しく「主権者教育の推進」が挙げられています。私はもうちょっと具体的な説明をいただきたいと感じるのですが、新しい施策として出てきたものにつきましては、これを浸透させるためにですね、より具体的に明記しなければならないということでもあります。</p> <p>例えば、先般の説明にはなかったのですが、18歳選挙権ということを問題の念頭に置いてという説明はあったんですが、要するにこれからは主権者意識、政治意識というものを養っていかなければならないということでもありますので、新しくやるということは、今までやってきた事業をそれに関連付けていくということも大事です。</p> <p>例えばですね、この間、中学生議会がありました。委員の方から毎年やったらどうだということでありましたけれど、それでは現場の方は大変だということは理解できるわけです。それならば3年に1回、つまり中学生の子たちがですね、3年の間に誰か代表者が出てやるということもまた学校で受けると大変だと思うんです。市長さんと小学生の児童とが、市長さんと語る会だとか、これは管轄が違うかもしれませんが、子どもさんたちとやったまちづくりなどを具体的事業として位置付けておくと、そうすることによって、学校の方も3年に1回とか、何年に1回とか先の見通しを持ちながらやれば、学校というのはお応えできると私は思います。ですから、主権者教育の推進というようなことを新しく施策に挙げながら、やはり具体的にきちっと書いて見やすくしておくということが申し上げたかったことでもあります。</p> <p>ちょっと繋ぎで申し上げましたけれども、浅井委員よろしくお願いします。</p>
浅井委員	<p>今、河合委員長のお話に引き続いてという形になるのかもしれませんが、私も感覚としては主権者教育の推進といっても、今どきの子どもは多分、選挙に行かないといけないよと言われても、そうですかねで済んでしまって、なぜ選挙に行かないといけないか、そういうことをきちんと教える必要がある。</p> <p>あと、肌で感じる必要があると思いますから、例えばごみゼロ運動に参加したとか、市の何かそういうボランティア的な行事に参加して、もうちょっとこうだったらいいんじゃないかとか、まだ足りないんじゃないかとか、そういう何か市に対する要望が聞けるように、その前に活動とかに参加させて子どもたちにも市に対する意識を高めていく。実際に、市の市政と自分たちは離れていないんだよというようなことを体験させる場を増やすということも方法の一つとしてあるんじゃないかなと私は思います。</p>
河合委員長	<p>はい、教育長さんお願いします。</p>

発言者	要 旨
細谷教育長	<p>今の浅井委員のご発言は、私も同感でございます。主権者教育というのは、みんな投票に行こう、そういう機運を高めるための教育だけではなくて、むしろ日々の私たちの身の回りで何が起きているのかということについて問題意識を持ったり、あるいはそれを解決するためにはどうしたらいいんだろうという意識を持ったり、あるいはどちらの道に行くのかと問われたときに、右とか左とかという自分の考えを持っていることであったりという、一つ一つのそういう力をつけていくことが結果的には主権者教育になるんだろうということを思っています。そのための一つとして、例えば中学生議会は何年に1回ということは置いておいても、もともとその大人の会議に子どもを呼んで、子供の意見を聴取するか、逆に子どもたちの会議に大人が出かけていって、子どもたちはどんなことを感じているのだろうと考える機会を増やすことも主権者教育になっていくんだろうと思うし、子どもたちが身近な問題を発信するという力を持てるのもいいことなのかなと思っています。</p> <p>まとまりのない漠然とした物言いで恐縮ですけども、浅井委員の発言を聞いてそんなことを思いました。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、浅井委員さん、それから教育長の考え方ですが、基本理念の「まちを支える市民の豊かなライフスタイルの実現」という、この基本理念に繋がる形ですね。ここを考えていくというのは、具体的には地域の中での広い立場で考えた方がいいというご意見だというふうに理解しております。</p> <p>他の委員さん、ございますでしょうか。市長さんお願いします。</p>
市 長	<p>よろしく申し上げます。</p> <p>この資料で示されたものを見てですね、徳育、知育、体育、協働とありますが、受験で学力が大きなウェイトを占めてくると思うんです。そうすると、一覧表の「知育」の「1確かな学力の育成」これは今の教育が受験に向けている分、ウェイトが高くなっていると思うんです。このことは、子どもたちにとってもそうだろうし、先生もそうだろうと思うんです。現実がそうであるならば、これでいいかどうか少し議論をしないといけないと思うので、ここで少し言っておきます。</p> <p>総合的な人格を持った子に育てるためには、教育にも社会そのものの知識なり経験なりこういうものが必要で、それによって主権者としての力をつけてくるというご指摘があったと思うのですが、その通りだと思うんです。</p> <p>今日はちょっと辛口で申し上げますと、今の先生は社会経験が足りないなという気がするんです。勉強ばかりしてきていきなり先生だということ。社会経験がない。昔は苦勞して先生になるまでに社会性を培った先生が非常に多かった。今の先生は、社会の仕組みを知らない。先生の採用試験が非常に難しくなっているので、先生になるには相当勉強しなければならない。つまり、県の方たちが勉強が大事だということのだから、社会の仕組みを知る大切さを間違えてしまった。</p> <p>ただ、やっぱり子どもたちにとって勉強は大事なものですから、この確かな学力というものがかなりウェイトが高いと思うんですね。子どもたちと触れ合うこともそれはそれでいいと思うんです。そして半分くらいのエネルギーを残りの仕事などで使うことになる。そこで社会経験が必要になると思うんです。</p> <p>社会の仕組みを知るのにどうするかというと、例えば今、市役所や会社でもインターンシップなんかを重視し始めたんですよ。ここ何年かに義務付けまして、議員さんとの話し合いにもインターンシップの人に入ってもらっているところと学んでもらう。毎年、会社は何人来られたとのことを言っているくらいですから、相当やって人材を育成している。そのように、先生で社会性、経験のある人を学校に入れてもらう。</p> <p>そういう意味で、社会との接点を外部講師に頼ることも大切だと思うんです。ゴミの問題やら、道路の問題でいろんなことのお話を申し上げるとハタと気づくでしょうか。</p>

発言者	要 旨
	<p>社会との接点を学校の外部の人たちにしゃべってもらって、そこで勉強していくというのは本当に実践的だし、リアリズムがあると思うので、先生一人ではなく、いろんな方を呼んでいろんな形で教えてもらうという学校を目指して行ったらどうかなと思うんです。ALTなんかもその一つで、生きた英語を学べます。</p> <p>それと、私は一つは先生に楽をさせたいんです。そして、子どもと向き合う時間を増やしてほしい、子どもたちに手間を掛けられるようにしたい。そのことにも目を向けております。その意味で、こういう素晴らしい仕事を進めていただけたらと思っています。</p> <p>その一方で学校に対する要求があり過ぎるものですから、子どもたちはいろんな課題、いろんな社会性を身に付け、社会そのものを動かしていくことになる。今後の教育というのは、問題解決能力というか、そういうものも高めていかなきゃならないと思うのです。ただ、今申し上げたように、学力というのは子どもたちにとっておそらく6割7割が習ったことを記憶することで、それはそれで大事だとは思いますが、トータルで見えていくことも大切です。ですから、そのことを思いまして、教育振興基本計画、これはこれでご提案申し上げたいと思います。以上です。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>市長さんのご意見を伺いましたが、先生たちは子どもたちに学力をつけることが大事だと、私も同感です。</p> <p>こういうものはいろんなものを書いておかないと、トータルとして悪くなるので仕方ない部分もあるわけですが、学校教育課でやらなければならないことはないかということです。このことも頭に入れながら進めていきたいというふうに思っております。</p> <p>2点目のご指摘は、教員の社会性の問題でありますけれども、省庁の要請するところによりまして、今の採用試験は本当に勉強しないと通りません。中学校の教師や小学校もですね、大変難しいんです。</p> <p>それからもう一つ、社会性ということで、やはり研修中にですね、ボランティア活動とかそういう市長さんのご指摘の面が出ていないところが課題です。それは、採用試験のあり方がだんだん変わってきたところでいいことだと思うんですが、やはり教員というのは社会と接することについては、なかなか難しいような現状でございます。</p> <p>3点目のご指摘は、もうちょっと地域とか専門家の力も借りてはどうかと。これは、各学校で小学校も中学校も先輩と語る会とかいろいろやっているわけでありましてけれども、教育活動の中にもうちょっと専門家とか地域の方々の力や援助というものを借りながら、子どもたちを育てることという点をご指摘になったと思います。これも頭に入れながら、やれるところから施策を進めていただければいいと思います。</p> <p>時間もございますので、ご意見がありましたらお願いします。</p>
竹中委員	<p>お願いします。今の話で、そもそもこの教育大綱とか教育振興基本計画とかいう、あまりにも大きなことを決めなければならないことをやっているということで、私はいつも発言する時に躊躇してしまっていたのが正直なところです。</p> <p>それで、今の市長さんのお話を聞きながら、確かに学力に高いウエイトを親も学校も子どもも置いてしまっているという事実は感じています。それで、ただ学校と人生の繋がっているということを協働であるとか生涯学習であるとか、そういうことに逆行して生活と生涯学習が繋がっているということも、こういう大綱の中に盛り込めないかなと思います。やっぱり協働という言葉が、お父さんお母さんたちや社会の中に随分と広まってきたとは思いますが、徳育、知育、体育と並ぶ協働というものは、今までにはないという気がします。それが、やっぱり人生と学校生活とか教育とかが繋がっているということも、こういう大綱の中に新しい強い部分として盛り込めたらいいなというこ</p>

発言者	要 旨
	とを今皆さんの話をうかがいながら感じました。
河合委員長	<p>ありがとうございました。ご意見をいただきました。</p> <p>学校教育と生涯学習とがですね、一つの生活の中で繋がって、また、子どもたちが学校教育を受けて社会に出ていくと。その辺を見据えながら仕事をしていく。その一つの概念が協働ということで、この概念を教育活動の中にも位置付けていくことだろうと思っております。事務局としては、おまとめに苦労があるかもしれませんが、今の市長さんの考えも踏まえていただけたらというふうに思います。</p>
河合委員長	<p>続きまして、議題（２）の方に移りたいと思います。</p> <p>（２）生涯学習プランの策定についてということでございます。事務局の方から説明をお願いします。</p>
生涯学習係長	(生涯学習プランの策定について説明)
河合委員長	<p>ありがとうございました。ただいま事務局から「生涯学習プランの策定について」説明がありました。</p> <p>委員の皆様からご意見がありましたらよろしくお願いします。部長お願いします。</p>
教育部長	<p>少し補足説明させていただきます。生涯学習プランの策定につきましても、先ほどの教育振興基本計画と同様に庁内の事業を生涯学習という切り口で施策体系にまとめる形で作業を進めておりますが、本日付けさせていただいている大府市教育振興基本計画の資料のようなどころまで、まだまとめ切れている段階ではございませんので、本日資料としてご提出ができておりません。</p> <p>これにつきましても、ほぼ同様な形で生涯学習という切り口で現在行われている事業を並べ直して、その中で弱い部分あるいは欠けている部分というものを明らかにした上で充実していくといったような書きぶりを現在考えているところでございますので、そこまでまだ進んでいないということを少し補足させていただきます。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。詳細なアンケートを、つまり実態をもとに、今ご提案がございました。新しくといたしますか、我々も作っていただいて生涯学習を推進していく条件は間違いなく整いつつあるというふうに認識しているわけであります。</p> <p>市長さんはいつでも生涯学習が楽しくなければ続かないということをおっしゃっていらっしゃいます。どんな勉強も学習というのは楽しくなければ続かない、これもその通りだと思いますし、大変大切な視点であろうと思います。</p> <p>その楽しさが道としての人間ですね、成長発展、自己形成に繋がっていくような形です。その生涯学習プランというものができたらなということを思っていますが、竹中委員さんは非常に活動をされてみえますが、ご意見ををお願いします。</p>
竹中委員	<p>はい、その公民館活動については、大府市は本当に素晴らしい状況だと思います。職員の配置であるとか、それから実際に稼働している時に行っても、私も地域と繋がりがながら公民館に出入りして、初めて大府市民になったなというような感じを持ちました。</p> <p>素晴らしい状況がまず基本としてあるので、それをこういう生涯学習プランとしてどのような形の中にどういうふうに盛り込むのか、ちょっと市役所の職員の方が多々やら</p>

発言者	要 旨
	<p>れる仕事に対してどのようにお話ししていたかわからないですけど、まず、そんなに素晴らしい公民館があり、そんなに素晴らしい講座もあるけれど、やっぱり関係ないなというか、ほとんど関係を持っていらっしやらない市民の方が一体何割いるのかなという気持ちを持っています。</p> <p>私も公民館が必要となるまでには、問題というのはむしろ敷居が高いところでした。やっぱり講座をきっかけに次に文化国際課のやっていたいろいろな行事や文化協会であるとか、市の方に進んで行けるその入り口としてのPRがもっともっとできたら、もともと素晴らしい方面に素晴らしい生涯学習の土台があるので、それをもっと一人一人の市民の方のところに赴いて、こんなにすごいんだっていうことを知らしめるにはどうしたらいいかな。こういうプランが策定されても、それが市民に届くのはどんな形なのかなということを感じています。以上です。</p>
河合委員長	ありがとうございます。浅井委員、お願いします。
浅井委員	<p>意見というかご質問になるかもしれませんが、私は長草ですので長草公民館の横でほとんど毎日散歩とかで通っているんですけど、私のイメージですと、長草公民館を一番利用している人たちは、多分グランドゴルフの老人グループじゃないかなと思うんですが、私から見てもすごい楽しい。本当に週に何回かゲートボールやっているのですから、そういう意味ではこの学習というのはスポーツにしてもらった方がいいんじゃないかなと思うんです。頻度はわかりませんがアウトドア派の人も結構多いですから、それこそ例えばグランドゴルフとかゲートボールとかそういうものをたくさん提供していけば、広報でも人を集めることができるんじゃないかと思えます。どっちがいいかということではなく、全然質の違う方々ですので、例えばグランドゴルフとかそういうものがこの生涯学習プランの中に入らないかどうかというそういう質問なんです、いかなものでしょう。先ほどの提案の中に健康・教養・芸術以外の分野についてのニーズがだんだん低くなっているというようなことがありましたけど、どうでしょうか。</p>
河合委員長	お願いします。
生涯学習係長	<p>生涯学習係の新美でございます。アウトドアの活動について生涯学習プランに入らないかというご質問でございます。プランに関しましては、生涯学習の分野を非常に幅広いものとしてとらえておりますが、スポーツの関係に関しましては、スポーツ振興計画というものがございますので、そちらを尊重しながら上手に盛り込んでいきたいと思っていますのでよろしく申し上げます。</p>
河合委員長	ありがとうございました。他にご意見はありますか。
教育部長	<p>今の点を少し補足説明させていただきますと、委員の皆様にお配りしたかどうかちょっと私の記憶がないものですから、後ほど確認して、もしなければお配りしたいと思います。大府市スポーツ振興計画というのが文化スポーツ課の方で、平成25年度から32年度までの計画ということでスポーツの分野をまとめています。そういった中心計画がございまして、その中ではスポーツの課題について生涯スポーツ、競技スポーツ、学校体育、それからスポーツ情報、スポーツ施設という5つの視点で整理がされております。その中で生涯スポーツにつきましてもエニスポ等の連携も含めて記述がされておりますので、そういったところはそちらの方を尊重する形にしたいと思います。ただ、当計画の生涯学習プランの方にもその部分を引用する形での記述は何かしらしていくことが必要であろうと考えておりますので、そんな形で役割分担をしておりますのでよろ</p>

発言者	要 旨
	しくをお願いします。
河合委員長	<p>ありがとうございました。スポーツ振興計画の方で今、浅井委員さんがご指摘の点については論じられる必要がある。場合によってはこちらにも同じように記述しながら重点化していくという方法でございます。</p> <p>竹中委員さんの方からお願いします。</p>
竹中委員	<p>いいことをやってもなかなか市民に繋がっていかないと、そうするとPR活動の不足ということにいくわけでありまして、もうちょっと本質的にはですね、なかなか難しいところで、PR活動して周知徹底すればもちろん幾分かは成果があるでしょうけど、もうちょっと生涯学習というものに対する時の考え方を変えていかないといけない気がするんですが、どうしたらいいでしょうかね。</p>
河合委員長	どうですか。永田委員さんが何かありますか。
永田委員	<p>2年に1度実施する高校生以上へのアンケートが無作為で2,000枚出されて返信が3分の1くらいなんですけれど、どのくらいの例えば年代別にいうと返信があったかなと思います。もともと公民館の講座とかも、そういうお年が高めの方の講座が多いと思うので、当然返信してくれる方も数が多いであろうと思うんですけれど。若い方の意見とかっていうものは、なんか盛り込まれていないような気がするんですけれど、どうなんですか。</p>
生涯学習係長	<p>はい、結果としては、やはり若い方の返信は非常に少ないものでございました。特に10代20代に関しますと、本当に数十枚しか返ってこなかったもので、やはり年齢が高い方の意見がよりよく反映されていくといったアンケート結果でございます。</p>
永田委員	<p>会社が忙しくてなのか、回答できない方が多くてもそれがアンケート結果となるのか知りませんが、本来であればやっぱりそういう方の意見も返信してくれるという意識がある中で、すごく大事な意見だと思うものですから、そういう人の意見が参考になるようなプランが次にできればいいなというふうに思っています。</p>
河合委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>先ほどの学校教育と生涯学習の繋がりの問題も関わるわけですけど、やはり義務教育の段階で子ども達がですね、どういう意識を持って大人になっていったということですね。成長するということに繋がるんだろうと私は思っていますが。</p> <p>市長さんお願いします。</p>

発言者	要 旨
市 長	<p>公民館の活動について、大府は非常に盛んになってきているわけですが、20数年前に私も生涯学習課長をやらせていただいております。もうそのときからいろいろと問題はありましたが、今でもあの立派な施設をわずかな人が使っているのがもったいないという人がいるわけです。とりあえずそういう形でそういう問題も昔からあって、運営してきていたわけですが、今のこのプランの目標の中に「であい、ふれあい、まなびあい、いつでも、どこでも、だれとでも」というのがありますね。私はもっと昔から、講座の受講生あるいは公民館で見たり聞いたりした人が、周りの人におすそ分けしてくれという、おすそ分け運動を展開してほしいということを言い続けてきているんです。これは今でも続いているんじゃないかと思うんですが、つまり、おすそ分け、別の言い方をすれば、他の人に教えるということですね。教えるということと学ぶということとは不離一体ですから、教える中で学ぶこともいっぱいあるわけです。受益者として教えることもぼちぼち展開してもらえるとありがたいと思うんです。</p> <p>それがどう意味なのか、いつぞやメディア上でICTの特集やってましたが、私の身の嫁さんがICT支援員のパートを見つけてやっているんです。教えるのは一通り一度ですよ。授業で何か起きたらその人たちが対応をしていくんです。こういった定期的に講習を受けて育成する。こういう人もいるので、要するに授業で間に合わないから、てっとり早く二つに分けて教育して支援員に育てていくという、これは一つのヒントで、それでも十分に間に合うことができるわけです。</p> <p>先ほど申し上げたように、学校教育の中にいろいろな専門的経験者、そういった人たちを入れて教えていただく。そういったことを教えることによって学んでいくわけです。学んだものがさらに他の人へ、ですからぜひそういう教え合うということ。</p> <p>こういう事業展開をやってもらえると申し、ここへ来ていただく報酬とかは昔はなかったと思うんですよ。以前はお医者さんが来て性教育などを教えたこともある。そういう専門的な経験者、あるいは年長者の方から専門の業者にもお願いしているんですが、それに加えて、海外生活が長い人とか農家の方とか、それらの方を活用するという。身近にもいますので、そういう教え合うというものを一つのジャンルに位置付けていくと理解してもらえないのではないかと。学ぶ方も公民館で学んできた経験が10年以上の人もおり、何件学ぶかというのが目標ですから、生涯学習で生き生きと暮らせるというのが、生涯学習の最終目標ですから、学ぶことも教えることも活き活きと暮らせる元となると思いますので、ぜひそれも検討していただきたいなと思います。</p>
河合委員長	はい、教育長お願いします。
細谷教育長	<p>ただいまの市長さんのお話を受けて、若干自分の思いを述べさせていただきますけれども、この生涯学習プランの策定に当たって内部で調整している時に、最初の学校教育と生涯学習の接点みたいなことについても、少しだけ議論したことがございまして、例えて言うなら、今まさに市長さんがおっしゃったように、生涯学習の何を市の講座から学んだか、技術なりネットワークなり、その人的なものが学校へゲストティーチャーとか、あるいはその学力のサポーターだとかいうようなことで関わっていただけのようになっていくと。</p> <p>先ほどの教育振興基本計画の中でもご指摘がありましたけれども、学校にとってもそれがいい形で支援という形で受けとめられると思うし、また、入っていただく方にとっても自分らが学んだことが役に立つということで生きてくるというか。また、お互いにとって一石二鳥にも三鳥にもなるなんてことも思ったりしています。</p> <p>だから、それを生涯学習プランにどう位置付けられるかということについては、ちょっとまだはっきり申し上げられませんが、そんなイメージを持ちながらプラン策定に当たっているということをご承知いただきたいなと思います。以上です。</p>

発言者	要 旨
河合委員長	はい、ありがとうございました。浅井委員さんお願いします。
浅井委員	<p>話がちょっと変わってしまう恐れがあるんですが、うちのところでは、いわゆる檀家さんの寺院離れが進んで、公民館に来る人が減っているという、そういうような感覚かもしれませんが、その対策とか防止みたいなこともちょっとやっているんです。昔はとても簡単な方法、例えばうちの手法は曹洞宗の場合は、一番こういう集客力というか人が集まったのは、高齢化というテーマでやっているといふみんないっぱい来てくれます。だからとっても楽だと、それをやればいいその方法だけです。現在は、やっぱり皆さんの好みとか趣味が多様化して、一つの活動でたくさん人が集まるっていうのは、ほぼ無理になってきて、どうするかというと、細かいサービスでいくつも提供して人が来てくれてよかったとなるわけです。だから、一つのものにちゃんと長期計画を立ててきちっとやって、そこに人を集めるというのは理想かもしれないですけど、なかなか現実問題難しいです。</p> <p>それで、今後逆に考えられているのは、適当にもっと気楽に何かこれをやりたいというものを集約することです。そういうようなフレキシブルに変えていって、生涯学習プランというきちっとしたものを作ってしまうと、きちっとしたものしかやれないから、なかなか負担が大きいものがあります。これは行政的には難しいかもしれないですけど、公民館では細かいものをいくつも提供するなど、このくらいの柔軟性が必要ではないかと思えます。公民館は一般の市民に開かれています。いろんな活動やっているよということで敷居が低くなるわけだから、いわゆる人が来るようにPR活動をして、労力としてはできるだけ減らせられる努力をすると、そういう柔軟なスタイルが今求められているという気がします。行政の立場からすると難しいかもしれませんが、私の意見として述べさせていただきます。</p>
河合委員長	はい、ありがとうございました。宗教界の方法を参考にしてというお話であります。市長さん、お願いします。
市 長	<p>そのとおりなんです。市役所の中でそういう柔軟性があってフレキシブルに対応できるのは生涯学習ぐらいなんです。しかし、5年ベースで計画を立てますからその間、館長たちにはきちっとやってもらわないといけないうすよ。その上でフレキシブルなやり方をしておかないといけないうすよ。もう、はなから何から何までフレキシブルな意図が出てしまう可能性もあるものですから、そこは気をつけてやっていかないといいないうすよ。役所でそういういい加減なことができるのはここぐらいです。</p>
河合委員長	他にご意見ございますでしょうか。西村委員お願いします。
西村委員	<p>今日、その方針で市長さんが言われたことを聞いてわかったことですが、吉田公民館で3月のこの時期に、おこしものづくりを講座としてやっているんです。講師の高齢化ですとかもありますし、やはりこうした講座に関しては本当に人員を集めるのが大変なので、こうした講座を通して先ほど浅井委員の言われたように、ちょっと追加で避難訓練をしてAEDの使い方を教えてみたり、やんわりとしたその講座を受けることによってこういうことをやってみませんかみたいに、次の講座を受ける手続きをするやり方をしています。今50人程しかいませんが、昼間でも時間のないときに、ちょっとおこしものですよとって講座を受けていただき、やり方を覚えていただく。それを次に</p>

発言者	要 旨
	<p>保育園などに伝えていただく。そういうこの地域ならではのやり方で続けています。生涯学習もそういうふうにして発展していくのではないかと思います。</p>
河合委員長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>生涯学習推進の方法論についてですね、浅井委員や西村委員の方から具体例を通してお話がございました。</p> <p>これから策定していくことですので、おそらく第1部ではですね、そうしたことを踏まえながら策定にかかると思いますが、学び合い教え合いということですね、それを何とか波及させることによってそういう裾野を増やしていくというような方向で進められないかなと思います。</p> <p>もう一つは、市長さんからご指摘になりましたように、実際にいろんな知識を持った方があります。私の仲間にもお母さん向けに子育てなどの話をする講師をしている方が何人かみえますし、お母さん方はその話を聞いて自分の考えをある程度決めていく。そうすれば、そういった知識がお母さん方に広がっていきますので、それがおすそ分けなのかと思います。</p> <p>そんな状況でありますので、何とか生きた英語をというお言葉もありましたが、そういう地域の中でですね、力を活用できる方で、これは単に学校教育だけではなく、公民館活動やそれから今のさらさら教育の推進についてもですね、いかに取り入れていく方法はないものかと思います。</p>
河合委員長	<p>(2) につきましてはこれぐらいにして、次へ進めさせていただきたいと思います。議題(3)の「平成28年度教育委員会予算について」ということでございます。事務局の方から説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>(平成28年度教育委員会 学校教育課予算について説明)</p>
河合委員長	<p>ありがとうございます。続いて、生涯学習課の方もお願いします。</p>
生涯学習課長	<p>(平成28年度教育委員会 生涯学習課予算について説明)</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。平成28年度の予算について、先日の定例教育委員会でも予算の提案がされております。この機会に何かご意見がございましたらお願いしたいと思います。</p> <p>膨大な予算でございますが、税金を投入しての予算ですから、現場の方へ、社会教育、生涯学習については、公民館等と市民の声を反映しながら新しい事業が確保されていると私は認識しています。何かご意見があればお願いします。西村委員をお願いします。</p>
西村委員	<p>小学校教育振興事業のところで、就学援助費で給食費などが要保護準要保護世帯で無料になるんですが、今準要保護世帯って増えていると思うんですが、これは福祉の方のお話かもしれませんが、毎年増減はあったとしても、ここ数年間の状況はどうなっているのでしょうか。</p>

発言者	要 旨
学校教育課長	<p>準要保護の就学援助につきましては、学校教育課の方で認定していますので私の方からお答えさせていただきます。</p> <p>確かに、要保護・準要保護はここ10年でだいぶ増えてきておりまして、大体年間で600人前後の児童生徒が対象になっています。</p> <p>しかし、ここ2、3年で頭打ちになってきてまして、現時点では受給者の数字がこれ以上伸びるといった傾向はない状況です。この先、やはり景気が良くなればこれは下がってくるんじゃないかと思っています。経緯から見ますと、経済的に厳しい状況が続いて援助の対象人数も伸びてきていましたが、今は頭打ち状態ということです。以上です。</p>
河合委員長	<p>社会と経済の動向と大きく関わっているようであります。</p> <p>他に意見ございませんか。市長さん何かございますか。</p>
市 長	<p>大府市もこれは単年度の予算でございますが、施設整備は一定期間での改修・更新でみていく必要があるかと思っております。もう、毎年改修も何件とか、将来的に施設更新というのは出てまいりますので、そのための準備は今しております。</p> <p>公共施設整備基金という基金のほか、今年の補正予算でも対応します。基金にも3億ほど積み増しして、最終的には20億くらいにして使おうと思っています。さらに防災関係の予算もいつ災害があるかと毎年思っていますが、必要となったときにはそういう基金から取り崩して対応するというやり方をさせていただきますのでご安心いただきたいと思っております。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。市長さんから保証をいただいたと判断しております。</p> <p>今学校ではICTを使った教育を推進しているわけでありまして。これは今、お話を合ったように教育活動は長いスパンで先を見通してやらなければならないこともたくさんあると思うんです。それで、大府市は市長さんを始め多くの方々にご理解をいただいて子どもたちの教育又は生涯学習について推進をいただいていると、そういう認識ですね。私どもはやらなきゃいけないというふうに渡しは思っている次第でございます。</p> <p>この件につきましては、これでよろしいでしょうか。ありがとうございました。</p>
河合委員長	<p>「その他」が明記されておりますが、その他の項目について何か予定されておりますでしょうか。ございませんか、ありがとうございました。</p> <p>先ほどの市長さんのご挨拶がございましたが、ご勇退をされるということでございます。まだ、若いからもう1期というふうに個人的には思っておりますけれど、いろいろなことで先ほどお話が合った通りでございます。これまでですね、いろんな意味で私ども教育委員会の仕事につきましてご理解をいただき、またご指導いただいたということで、楽しくやらせていただきました。とにかく多くの行政の方たちがですね、将来の子どもたちを幸せにするために、また大府市民のためにですね、これからもご尽力いただけたらありがたいなというふうに思っております。</p> <p>それでは長時間にわたりましてありがとうございました。これで本年度3回目の総合教育会議を終了させていただきます。</p>